

1 第 4 学年「小数のわり算」

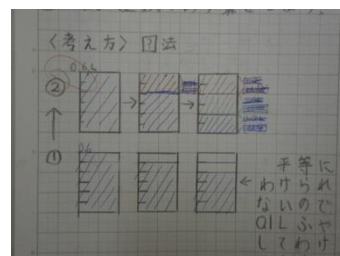
2 本授業の概要

本時は (小数) $\div$ (整数) の第 1 時である。 $0.6 \div 3$ の立式の後、その計算の仕方を既習事項を使って考えることをねらった。その際、「0.6 は 0.1 が 6 つ分である。」ということに基づき、線分図やテープ図などの図を用いて自らの考えを表現したり、友達に説明したりする活動を大切に扱うこととした。

3 実践の振り返り

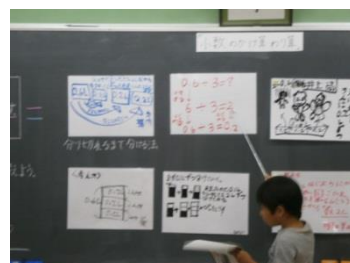
(1) 友達と考え方を交流し多様な表現をする。

前単元で (小数) $\times$ (整数) の学習をしている。その際、「個の考え」 $\rightarrow$ 「ペアでの考え」 $\rightarrow$ 「クラス全体の考え」と、思考の輪を広げクラス全体で共有できるようにした。その足跡を教室内に掲示し、今回の新しい学習でも「既習事項を生かす」「友達のを考え方を参考にする」ことで、図を用いながら視覚的に計算の仕方を考え、確かめることができた。



(2) 発表の順番を工夫し、具体から抽象へと考えを練り上げ一般化を図る。

児童から出された考えを、検討し練り上げる場面で課題が残った。リットルマスを使ったり線分図を使って考えたりする児童の中には、「0.1 を 10 倍して、整数に直して計算し、最後に答えを 10 で割る。」といった具合に、小数を整数に直して計算すると考える児童がいた。その場合、コップやリットルマスという「具体物」で考えていた児童が、「0.6 は 0.1 が 6 個分と考えられる。」という計算方法を経て「小数を整数に直して計算で考える。」という抽象的な計算方法へとつなげていき、全ての考え方を貫く考え方にまとめられるようにすべきであった。そのために、具体から抽象へと児童の考えが繋がっていくように、意図的に発表の順番を工夫し、思考の一般化を図る必要があった。



4 指導講評 講師: 国立教育政策研究所 教育課程研究センター教育課程調査官 笠井健一先生

- ・児童が「教えられなくても自分で考える。」習慣が身につけていたことがよかった。
- ・既習事項を使って小数を一度整数に直す、という方法を明確にしてやるとよい流れになったのではないかと。このために、 $10dL=1L$ 、 $0.1L=1dL$ を用いた発表を出させると分かりやすくなった。
- ・友達の見解を比較して精査し、よりよい方法に練り上げていく過程を大切にしたい。
- ・たくさん出た意見を高め、一般化していく。そして最後は意見に共通に潜むアイデアを押さえ、振り返りをするといふ。